



ビスホスホネート製剤のタイプと死亡リスクとの関連

Osteoporos Int, 2019

ビスホスホネート (BP) 製剤による死亡リスクの低減効果は薬剤タイプで異なり、未治療群と比べて窒素含有 BP 製剤を使用した場合には、死亡リスクは 34% 有意に低下したが、窒素非含有 BP 製剤の場合には有意なリスクの低下は見られなかったとする報告が、「Osteoporosis International」1 月 3 日オンライン版に掲載された。

骨粗鬆症の第一選択薬として幅広く使用されている BP 製剤は、これまでの研究で全死亡率の低下と関連することが示されている。Garvan 医学研究所 (オーストラリア) の D. Bliuc 氏らは今回、BP 製剤のタイプ (窒素含有または窒素非含有) と死亡リスクとの関連を調べる研究を実施した。

同氏らは、カナダ多施設骨粗鬆症研究 (CaMos) のデータを用いて分析した。1995 ~ 2013 年に、3 種類の BP 製剤 (アレンドロネート、リセドロネート、エチドロネート) のうち一種のみを使用して骨粗鬆症患者 2,356 例と、傾向スコア (年齢、性、併存疾患、骨折の種類など) および BP 製剤による治療を開始するまでの期間を一致させた、骨粗鬆症治療薬を服用していない患者 3,764 例 (対照群) を対象に、死亡リスクを比較検討した。両群とも対象者は全て 50 歳を超えていた。

その結果、窒素含有 BP 製剤 (アレンドロネート、リセドロネート) を使用すると、対照群と比べて死亡リスクの低下が認められ (ハザード比 (HR) 0.66)、特に女性でその傾向が強いことが分かった (HR 0.58)。しかし、窒素非含有 BP 製剤 (エチドロネート) 群では、対照群と比べて死亡リスクの有意な低下は認められなかった (HR 0.89、女性のみ HR は 0.88)。また、窒素含有 BP 製剤群とエチドロネート群を直接比較した結果、窒素含有 BP 製剤群の方が死亡リスクは低かった (HR 0.47)。

さらに、窒素含有 BP 製剤別に解析したところ、アレンドロネート群では対照群と比べて死亡リスクの低下が認められた (HR 0.62、女性のみ HR 0.60)。一方、リセドロネート群では、対照群と比べて全体的には死亡リスクの低下は認められなかったが (HR 0.97)、症例数が少ないため有意ではないものの、女性のみを対象とした解析では死亡リスクの低下が見られた (HR 0.52)。

これらの結果から、著者らは「窒素含有 BP 製剤の使用は生存率の向上と関連し、特に女性において強い関連が見られることが分かった。一方、窒素非含有の BP 製剤については、生存率に対する利点はほとんど見られないことが示された」と結論。今回の研究結果は、BP 製剤による死亡リスクへの影響について、そのメカニズムを解明する新たな道を開くものだとの見方を示している。

- (1) メディカルカスタムコンテンツは、AJ Advisers LLC が制作、株式会社プロウエーブが編集 (編集協力 AJ Advisers LLC) した記事です。情報の正確性については万全を期しておりますが、各制作・編集社は、利用者が本記事の情報を用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。
- (2) 本記事の内容及びメディカルカスタムコンテンツのロゴの無断転載・配布を禁じます。
- (3) 掲載されている薬剤の使用にあたっては添付文書をご参照ください。